

安全の手引き（ブルキナファソ）

令和5年1月

在ブルキナファソ日本国大使館

I 序言（はじめに）

2015年以降、ブルキナファソの治安情勢は全般的に急激に悪化しており、2022年10月、首都ワガドゥグからボボデュラツツ及び同市周辺県の海外安全情報は、「レベル3（渡航中止勧告）」に引き上げられ、それ以外の地域は、「レベル4（退避勧告）」となりました。同治安情勢については、大きく①テロ、②一般犯罪、③政治情勢に端を発する政情不安に分けられます。それぞれ発生地域や危険度、対処方が異なりますので、御自身の滞在に応じて情報収集を的確に行い、予防的な行動をとることが必要になります。現在、ブルキナファソ国内においては、①首都圏においてはテロの危険性は限定的と言えますが、人の集まるような場所は常に一定の危険性を有しているものとして行動する必要があります。また、政治や軍等の機能の中核であるだけに、関連のデモ等が頻発することもあり、それらの動向や発展につき注意を怠らない必要があります。②また、特に首都圏の外においては、武装集団による襲撃、身代金目的の誘拐、幹線道路に埋め込まれた無差別な即席爆発装置（IED）等の被害が想定されるテロ等の不測の事態に巻き込まれる恐れが格段に高くなっていますので、どのような目的であれ渡航は止めてください。また、レベル4の地域に既に滞在されている方は、直ちにこれらの地域外（安全な場所）に退避してください。

万が一、ブルキナファソに滞在する方は、以下の点に十分注意してください。

II 防犯の手引き

（1）防犯の基本的な心構え（3つの基本）

（ア）目立たない

高価な装飾品を身につけて外出したり、多額の現金を人目にさらすといった行為は、犯罪者の目を惹き、犯罪を誘発してしまうこともあります。また、日本人というだけで場所や状況によっては裕福なターゲットとみられ得ることに留意が必要です。

（イ）パターン化を避ける

犯罪者は、犯罪行為の対象者を十分観察し、計画を立ててから行動を起こすことが多いです。そのため、無関係の人に自分の行動を察知されないようにすることも重要です。

（ウ）警戒心を怠らない

外出時は常に周囲の状況を確認し、「何かおかしいな」と感じたときには、その場から速やかに離れるなど危険を予見・回避してください。

（2）犯罪発生状況

(ア) テロ情勢

2015年12月のカボレ政権発足後、北部サヘル地方及びその周辺地域でイスラム過激派による襲撃や誘拐が頻発し、2018年からは東部地方において、2019年からは中北地方において、治安機関等を標的とした襲撃事件が急増しています。また、コートジボワール国境地帯でもイスラム過激派の勢力が入り込んでいるとみられ、南西部や南部でも襲撃や外国人の誘拐が断続的に発生しています。2019年1月、政府は特に治安情勢が深刻なマリ及びニジェール国境地帯を対象とした非常事態宣言を発令しました。

2022年、10月時点において、ブルキナファソ軍は、各種テロ掃討作戦を実施しているものの、全国各地において昨年を上回るテロ事案・襲撃等が発生しており、治安改善の兆しは認められません。このため、同年10月、西部マリ国境周辺地域、南西部コートジボワール国境周辺地域、南部ガーナ国境周辺地域及び中東部地方は、危険情報をレベル3からレベル4に引き上げられ、中部から南西部地域は、危険情報をレベル2からレベル3に引き上げています。その後、トラオレ暫定大統領政権下、対テロ掃討作戦により奪還地を増やす等努力がみられ、新規に募集した5万人のボランティア兵（VDP）が投入される見込みです。これにより掃討作戦もより本格化することが想定されますが、同時にテロリスト側の反撃も本格化すると共に地方部における占領拡大方針を越えて後方攪乱的攻撃等にも留意する必要があるとみられます。

首都ワガドゥグでは、2016年1月15日（金）夜にホテル及びカフェを襲撃する事件が発生し、2017年8月13日（日）夜にはトルコ系レストランが襲撃され、外国人を含む多くの死傷者が発生しています。さらに、2018年3月2日（金）昼にはフランス大使館及び軍参謀本部施設が襲撃され、イスラム過激派が犯行声明を発出しています。

当国全土を対象としたテロの発生状況は以下のとおりです。

(2023年1月大使館調べ)

2015年	発生3件	死者5人
2016年	発生15件	死者63人
2017年	発生73件	死者81人
2018年	発生93件	死者113人
2019年	発生224件	死者756人
2020年	発生269件	死者802人
2021年	発生683件	死者1,550人
2022年	発生890件	死者2,104人

(イ) 一般犯罪情勢

首都ワガドゥグにおいて、2018年6月、邦人が何者かによって自宅で現金を強奪される事件が発生しました。2019年8月には、金融機関で多額の現金を引き出した中国人が車で移動中に現金を奪われています。2020年に入ってから、ジョギング中の欧米人が強盗被害に遭うなど外国人を狙った路上での強盗事件が多数発生しています。また、2022年においても、夜間、被害者の後を付け、路地裏等人通

りのない場所において、拳銃や自動小銃を使用した強盗が多数発生しています。この他にもひったくり、スリ、車上ねらい等の窃盗事件が市場、バスターミナル、銀行付近で発生しています。

地方においては、治安機関の体制が手薄となり、幹線道路（特にワガドゥグからポボデュラツソ間の国道において、長距離バスが相次ぎ襲われ、乗客の金品が強奪される事案が発生しています。

また、本年4月、長距離バスで移動中の外国人が誘拐されるなど、外国人を狙った誘拐も発生しています。バス・タクシー等、陸路で長距離を移動する場合、誘拐やテロに巻き込まれる危険性が非常に高いので、その要否を十分に検討し、飛行機等代替手段がある場合は、そちらを利用することも検討してください。

当地治安当局は、必ずしも上述の治安情勢に十分対応できる人員や装備の確保ができておらず、不十分な体制での治安対策を強いられており、犯罪抑止や被害時の対応において限定的な対応となり得ることを念頭に行動する必要があります。

(ウ) 抗議活動情勢

首都ワガドゥグにおいては、2022年、8か月の間に2回（2022年1月24日、同年9月30日）一部の国軍兵士が武力により権力を掌握する事案が発生しました。これら政治的な情勢不安のため度々デモが発生しています。これまでのところ、国民・市民による大規模なデモや暴動等には発展していませんが、経済・社会状況の悪化等による市民の不満の蓄積等による状況悪化等により、今後の大規模デモやそれに触発される暴動等の可能性は否定できません。

(3) 具体的注意事項

○ 住居の安全対策

- ・必ず本人が建物を下見し、安全面で納得のいく物件が見つかるまでは妥協しない。
- ・窓、扉に鉄格子が設置されているか確認する。（日本の2階以上であっても必要）
- ・外周部（隣家を含む）から簡単に侵入できない構造になっているか確認する。
- ・警報装置等の設置の有無（無い場合は設置の可否を確認する）。
- ・夜間や周辺道路の状況を確認する。（街灯の有無や道路が冠水しないか等）・毎日の行動ルート（通勤・通学・買い物等）は安全のため複数あるか確認する。
- ・隣近所との良好な関係作りを行う。
- ・非常時に持ち出すものを選んでおく。
- ・出入り口の鍵は複数設置することが望ましい。

○ 外出時の安全対策

- ・玄関、門扉の開閉時には周囲の安全を確認する。
- ・外出時は場所・目的にあった服装で、貴重品や必要のない物はできるだけ持ち歩かない。
- ・できるだけ複数で行動し、目的地が近くても車を利用する。
- ・徒歩や自転車で移動する場合、後方から近づいてくる車両に注意する。
- ・人通りの少ない場所、暗い場所等を避ける。

- ・ 早朝・夜間の外出はできるだけ避ける。
- ・ 親しそうに言い寄ってくる相手には警戒する。
- ・ 駐車する場合には、できるだけ見張り人がいるところに駐車する。
- ・ 車内の見えるところに物を残さない。
- ・ 乗車、降車の際には、周囲に注意を払い必ずドアロックを掛ける。
- ・ レストランやスーパーでは常に出入口付近の動向に気を配り、非常口の位置を確認しておく。
- ・ むやみに写真や動画を撮影しない。
- ・ むやみにドローンを飛ばさない（2018年12月、邦人旅行者がドローンを飛ばして動画を撮影していたところ、憲兵隊に拘束された事案あり）。
- ・ 遠出する場合、行き先の安全情報を大使館等に必ず確認し、行き先を誰かに伝えておく。

○ 生活上での安全対策

- ・ 一軒家に居住する場合は、できるだけ警備員を配置する。（24時間配置が望ましい）
- ・ 警備員を過信しない（安易に予定を伝えたり、鍵や貴重品を預けない）。
- ・ 心当たりがない者が訪問してきた場合、絶対にドアを開けない。
- ・ 使用人や運転手等を雇用する場合、身元を確認し行動には注意を払う。
- ・ 携帯電話等を常に持ち歩き、緊急時にいつでも連絡を取れるようにする。

（4）交通事情と事故対策

当国においては、飲酒運転、反対車線走行等が頻繁に行われており、整備不良車両が多く見られるなど交通事情・運転マナー等については日本と大きく事情が異なります。以下の点に注意し、交通事故に遭わないようにしてください。

○ 車を運転する場合

- ・ 車両の整備・点検を励行する。
- ・ 走行中は、自分に合った車間距離、速度で運転し、安全運転に徹する。
- ・ 夜間はハイビームが基本、周囲の状況によって、ロービームを使用する。
- ・ 昼間でもヘッドライトを点灯する等、常に周囲から存在を視認しやすいようにする等配慮する。
- ・ 夜間は歩行者、無灯火の車両、バイクに注意する。
- ・ 優先路・信号機を過信しない。

○ 運転手を雇う場合

- ・ 車両整備知識がない者、ペーパードライバーが多いことに留意する。
- ・ 予防的運転、群衆がいる場合の迂回等危険回避について教育する。

○ オートバイ、自転車を使う場合

- ・ 後方からの追い越し車両に注意する。

- ・周囲のオートバイ、自転車の流れに逆らわない。

○ 歩行者の場合

- ・信号が青であっても、必ず左右の安全を確認する。
- ・常に周囲の車両の動きに注意する。

(5) テロ・誘拐対策

(ア) テロ対策

過去にワガドゥグで発生したテロ事件等の特徴は以下のとおりです。

- ・週末（金曜日含む）や休日の夜間等、多くの人が集まる時間帯で発生
- ・外国系レストラン、カフェ、高級ホテル等、多くの人（特に欧米人）が集まる場所で発生
- ・フランス関連施設、政府関連施設（特に治安関連施設）で発生
- ・市内（ライヨンゴ地区）でテロリストの拠点を摘発

屋外で行動する場合、このような時間・場所を意識的に避けることでテロや取締りに巻き込まれる危険性を低下させることができますが、夜間は場所にかかわらず、周囲の状況に常に注意し、万が一の際には臨機応変に行動することが求められます。

ワガドゥグ以外の地域では、特に北部地方、東部地方及び西部地方ではテロが頻発している状況ですが、同地方のみならず全国でテロが発生していますので地方部の訪問はしないでください。

(イ) 誘拐対策

2018年12月、ボボデュラツソを出発したカナダ人、イタリア人が誘拐される事案が発生（2020年3月マリ北西部で解放）したほか、2019年1月には、サヘル地方においてカナダ人が誘拐（翌日遺体で発見）され、同年5月、ベナンのブルキナファソとの国境周辺地域においてフランス人2人が誘拐（仏の特殊部隊に救出）されました。その際に別途誘拐されていた米国人および韓国人も救出されました。同年11月には、南西部で中国人が誘拐（翌日解放）されました。また、2020年10月にはブルキナファソ東部国境近くのニジェール国内で米国人が武装勢力に拉致（ナイジェリア国内で救出）された事案が発生、2021年4月には、東部地方において、密猟対策のパトロールが襲撃され、同行していたスペイン人2人、アイルランド人1人が誘拐（その後殺害）されました。2022年4月、中東部で米国人の修道女が誘拐され（9月に解放）、同月ニジェールへ長距離バスで移動中のポーランド人が誘拐されました（6月に解放）。誘拐は国内に存在するイスラム過激派等の犯行であるとみられます。

国内の至る所にテロリストの存在が認められますので、地方都市への訪問はしないでください。万が一地方都市を訪れる場合は、陸路（長距離バス）での移動は可能な限り避けてください。

テロリストによる誘拐は、同活動資金調達が主な目的のため、超高額の身代金の支払いを要求されることが多く、かつ、テロリストの系列によっては身代金交渉に失敗すると判断されると躊躇なく処刑されます。仮に命が助かっても、一生分の収入以上の身代金支払いによりその後の人生に多大な影響を及ぼす可能性がありますので、誘拐されないよう安易な地方訪問等は避け、予防的行動をお勧めします。

(ウ) デモンストレーション（デモ）・抗議活動対策

2022年9月30日以降、ワガドゥグ市内では、度々、各種デモや抗議活動が実施されています。特にこれまで何度も抗議活動が行われた国連広場、R T V、フランス大使館、ランカスターホテル等周辺においては、非合法的な突発的な抗議活動が実施されるおそれがあります。これら抗議活動等が行われる場所や首相府やR T B周辺等では、軍等によりロードブロック等の交通規制がなされ、交通への影響がある場合が想定され得ます。また、統制のとれていない参加者・群集により不測の事態が発生する恐れがありますので、抗議活動に関する最新の情報の収集に努めていただき、多くの方が集まっている場所、政府関連施設（軍、警察等）、外国人が多く集まる施設等に近づかないようにしてください。

(エ) その他の対策

テロ情勢の悪化に伴い、政府による治安対策が強化されており、市街地や主要道路ではパトロールや検問が頻繁に実施されているほか、夜間外出禁止令が発出されている地域もあります。通行中の外国人が尋問や所持品検査を受けることも多く、身分証を所持していなかったり、危険物を携帯していたりすれば危険人物と見なされる可能性があります。また、警察や憲兵隊の指示を無視した者が発砲された事案もあり、治安当局の指示には従うことはもちろん、当局による取締りに巻き込まれないようにする注意も必要です。

(6) 緊急連絡先

○ 在ブルキナファソ日本大使館

電話番号：(226) 2537 6506、6509

Fax：(226) 2537-6581

領事窓口時間 8：00～12：00、14：30～15：30

休館日：大使館ホームページ (https://www.bf.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00202.html) をご覧ください。

○ 警察（日本の110番） 17

VERT（警察と憲兵隊の組織） 1010

憲兵隊 16

ワガドゥグ中央警察署 2530-6382

○ 消防・救急車（日本の119番） 18

○ 一般病院等

- (ア) Clinique Les Genêts Plus
住所：Ouaga2000（日本国大使館の近く）
TEL：2537-4323
- (イ) Clinique Médicale Les Flamboyants 住所：295 Avenue John Kennedy Secteur 4 Koulouba（グンゲン地区）
TEL：2530-7600
- (ウ) Centre Médical International
住所：21 Rue Nazi Boni（フランス大使館裏手）
TEL：2537-4466（緊急時：7020-0000）
- (エ) Polyclinic International de Ouagadougou (PCIO) 住所：Ouaga2000（米国大使館近く、CT設備あり）
TEL：2537-5100
- (オ) E R A S（歯科）
住所：Avenue Kwame N' Krumah Immeuble Nasa 2e étage Porte gauche
TEL：2531-3614
- (カ) Pharmacie de l' Hopital（薬局、24時間営業）住所：Secteur 4（国立病院前）
TEL：2530-6641

○ フランス語による緊急連絡用語

- (ア) 路上で襲われたとき
「襲われました」 On m' a agressé!
「すぐに来てください」 Venez tout de suite、 s' il vous plaît.
「私は〇〇にいます」 Je suis à 〇〇.
- (イ) 自宅に強盗（泥棒）が入ったとき
「強盗（泥棒）に襲われました」 On m' a cambriolé!
- (ウ) 交通事故にあったとき
「交通事故を〇〇（〇〇の近く）で起こしました」
J' ai fait un accident de la route sur 〇〇 (côté de 〇〇).
「私は怪我をしています」 Je suis blessé.
- (エ) その他
「助けて！」 Au secours !
「泥棒！」 Au voleur !
「火事だ！」 Au feu !

Ⅲ 在留邦人用緊急事態対処マニュアル

(1) 平素の準備と心構え

緊急事態（クーデター、暴動、テロ、大規模事件・事故・災害等）が発生した場合、当館は邦人保護に万全を期すため、関連情報を収集し、随時在留邦人の皆様へ連絡します。また速やかな安否確認のために、御自身の安全状況につき当館へ御お一報願います。日頃から通信不能・移動不能になる事態も想定し、以下の心構えをお願いします。

(ア) 食料・燃料の備蓄緊急時には、一定期間自宅待機等が必要になる場合があります。また、食料やガソリン等燃料が売り切れになり購入できなくなる恐れもあります。平素から非常用食料、飲料水、医薬品、燃料等を確保するようにしてください。

(イ) 避難場所、避難経路の確認：暴動等に巻き込まれる可能性がある場合は、常に周囲の状況に注意を払い、情報を収集し危険な場所に近づかないよう心がけてください。暴動等に巻き込まれそうになった場合の取り敢えずの避難場所について、常日頃から頭に入れておくことが重要であり、自分がどこにいるか（勤務先、通勤途上、自宅等）、自分がどのような事態に巻き込まれそうか等、幾つかのケースをあらかじめ想定して各自の一時避難場所（外部との連絡が容易に行える場所が望ましい）を検討してください。

(ウ) パスポート等の管理パスポート、現金、貴重品等最低限必要なものは、いつでも持ち出せるよう準備しておいてください。

(エ) 在留届、たびレジの登録

3か月以上滞在する方は、在ブルキナファソ日本国大使館が緊急時の連絡先を確認できるよう、必ず在留届を提出してください

(<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet>)。

3か月未満の旅行や出張などの際には、渡航先の最新安全情報や、緊急時の在ブルキナファソ日本国大使館からの連絡を受け取ることができるよう、外務省海外安全情報配信サービス「たびレジ」に登録してください

(<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)。

(2) 緊急時の行動

(ア) 緊急時の行動

外出時に緊急事態が発生した場合は、速やかに自宅に戻る、或いは最寄りの知人宅等に避難するなど、周囲の状況を確認してから移動するよう落ち着いて行動してください。

(イ) 緊急避難場所

在留邦人の緊急退避場所として、状況に応じ大使館または大使公邸を想定しています。自宅からの経路を確認しておいてください。

(ウ) 国外退避

(i) 騒乱等の発生により、在留邦人の生命、身体に危険が生じるおそれがあり、必要と判断した場合には「退避勧告」等の危険情報を発出します。

(ii) 国外退避の場合、航空便（商業便）の利用を優先しますが、状況に応じてはチャーター航空便、あるいは陸路による移動も想定されます。可能な限り航空便

(商業便)が運行しているうちに退避してください。

(iii) 緊急避難及び国外退避等の場合、大使館では可能な限り支援しますが、基本的には自力で集合場所まで来ていただくようお願いいたします。その際の携行荷物は必要最小限の手荷物1点程度にまとめるようにしてください。

(3) 緊急事態に備えてのチェックリスト

(ア) パスポート、イエローカード、コロナワクチン証明書又は陰性証明証の確認

(イ) 航空券の手配または航空便予約

(ウ) 現金の準備(現地通貨及び外貨)

(エ) クレジットカードの確認

(オ) 退避手段の再確認(陸路の場合、自動車の整備及びガソリンの確認等)

(カ) 非常用物資(食糧、飲料水等、ラジオ、懐中電灯、乾電池、常備薬等)

騒乱等の発生に備え、最低でも1人が1週間程度の籠城に耐え得る食糧、飲料水、懐中電灯等の非常物資を準備しておいてください。

(キ) 携帯電話やメール等の連絡手段の確認

(ク) 新型コロナウイルス対策として、PCR検査ができる場所の確認

(4) 緊急連絡網

大使館では緊急時に備え在留邦人緊急連絡網を作成していますので、皆様の連絡先に変更等が生じた場合は速やかに在留届のオンライン変更手続きをとるか、直接大使館に連絡してください。

IV 結語(おわりに)

ブルキナファソの治安情勢は、近年急速に悪化しており、海外安全情報は、「レベル3(渡航中止勧告)」若しくは、「レベル4(退避勧告)」となっております。よって、治安情勢を十分に把握していない場合は、テロ・誘拐等、不測の事態に巻き込まれるおそれが非常に高くなっておりますので、この手引きの内容はもちろん、常に最新の治安情報を入手し行動する必要があります。また、治安部隊の能力には限界がありますので、万が一の際には通報してもすぐに助けてもらえる可能性は低いこと、また、地方都市への安全なアクセスは、日本国大使館員であっても確保できませんので、直接的な邦人の救出は不可能であり、間接的な支援についても極めて困難となりますので、御自身の身の安全を最大限優先し行動してください。御不明な点がありましたら、大使館に御連絡ください。(了)